

生活関連物資定期調査の結果について

生活関連物資16品目（石油製品4品目、農林水産物資12品目）について、12月6日～10日に価格・需給状況を調査しましたが、その結果については以下のとおりです。

1 価格動向

① 石油製品

(単位：円（消費税込み）)

品目名	規格・容量	店舗形態	今回調査の平均価格	前回調査(8月)の平均価格	対前回比(%)	前年同月の平均価格	対前年比(%)
ガソリン	レギュラー1ℓ、店頭現金売り	一般店舗	132	134	▲1.5	127	3.9
		セルフ	129	130	▲0.8	124	4.0
軽油	個人消費向け1ℓ、店頭現金売り	一般店舗	113	114	▲0.9	108	4.6
		セルフ	109	111	▲1.8	104	4.8
灯油	店頭価格、18ℓ	一般店舗	1,363	1,370	▲0.5	1,164	17.1
		セルフ	1,340	1,360	▲1.5	1,117	20.0
	配達価格、18ℓ	一般店舗	1,485	1,493	▲0.5	1,324	12.2
LPガス	一般家庭用、基本料金及び10㎡を使用した料金	一般店舗	7,388	7,471	▲1.1	7,140	3.5

② 農林水産物資

品目名	規格	今回調査の平均価格	前回調査(8月)の平均価格	対前回比(%)	前年同月の平均価格	対前年比(%)
うるち米	県内産、精米、コシヒカリ、5kg	2,136	2,200	▲3.0	2,240	▲4.6
牛肉	ロース 100g	355	350	1.0	403	▲11.9
豚肉	ロース 100g	188	187	1.0	202	▲6.9
鶏肉	ブロイラー、もも肉、100g	118	112	5.0	119	▲0.8
まぐろ	赤身(生)、切り身(刺身用)、「めばち」または「きはだ」100g	432	412	5.0	336	28.6
キャベツ	中サイズ1個	216	196	10.0		
ほうれんそう	1束	128	192	▲33.0		
ねぎ	中サイズ1本	48	65	▲26.0		
だいこん	中サイズ1本	121	171	▲29.0		
たまねぎ	中サイズ1個	52	53	▲2.0		
にんじん	中サイズ1本	58				
白菜	中サイズ1個	247				

(備考)

- ・農林水産物資のにんじん、白菜の2品目については、今回調査において季節監視品目として追加した。
- ・農林水産物資のキャベツ、ほうれんそう、ねぎ、だいこん、たまねぎの5品目については、前回調査（平成22年8月）から規格を変更した。

2 結果の概要

【石油製品】

- ・前回調査（平成22年8月）と比較して、「ガソリン」が対前回は2円安（▲1.5%）、「軽油」が1円安（▲0.9%）、「灯油」が7円（1ℓあたり0.4円）安（▲0.5%）、「LPガス」が8.3円安（▲1.1%）と、すべての品目で若干の値下がりとなった。
- ・原油価格が上昇基調にあるため、石油元売会社においては卸価格の引き上げを公表しているところもあることから、海外原油市場の動向と併せ、石油製品の価格・需給動向を引き続き注視していく。

【農林水産物資】

- ・「牛肉」が対前回は5円高（1.0%）、「豚肉」が1円高（1.0%）、「鶏肉」が6円高（5.0%）、「まぐろ」が20円高（5.0%）、「キャベツ」は20円高（10.0%）となり、価格上昇となった。
- ・夏の猛暑等の影響による野菜の価格高騰は落ち着いてきているものの、一部の野菜では前回調査と比較して値上がりしていることから、農林水産物資の価格・需給動向を引き続き注視していく。

3 年末年始における価格・需給動向

上記調査と併せて、14の事業者（卸売市場、関係業界）を対象に生活関連物資の価格・需給の現況と年末年始における見通しについて調査を実施しましたが、その結果については以下のとおりです。

【概況】

- ・生活関連物資の供給に大きな問題はないものの、一部の品目の小売価格については下記のとおりの変化が見込まれる。

【石油製品】

- ・「ガソリン」、「軽油」、「灯油」、「LPガス」のいずれの品目も安定した供給が確保されるが、原油価格が上昇基調にあるため、小売価格は上昇するものと見込まれる。

【農林水産物資】

- ・「うるち米」は、供給過多や猛暑による品質の低下等の理由により、小売価格は平年を下回ると見込まれる。
- ・「まぐろ」は年々入荷量が減少しているため高値で推移しているが、例年の年末年始ほどの需要が見込めず、小売価格は平年並みと見込まれる。
- ・野菜は夏の猛暑の影響により出荷量の減少があったものの徐々に回復してきているが、「キャベツ」、「たまねぎ」、「にんじん」等の一部の野菜においては出荷量の増加が見込めず、小売価格は平年を上回ると見込まれる。
- ・その他、夏の猛暑等の影響により「鶏卵」については供給量が減少していることから、小売価格は平年を上回ると見込まれる。

【生活関連物資定期調査の調査方法等について】

①調査方法

県内7地方振興局において、調査期間中に原則、調査店舗に出向き、当該店舗において表示価格の確認及び聞き取りにより価格を調査する。

②調査の時期：

四半期に1回の調査とし、調査時期は、5、8、12、2月とする。

③対象店舗数：

非定店舗35店舗（各地方振興局5店舗）

○「石油製品」については、調査店舗の内訳を下記のとおりとする。

ガソリン：一般店舗3、セルフスタンド2、軽油：一般店舗3、セルフスタンド2

灯油（店頭）：一般店舗3、セルフスタンド2、灯油（配達）：一般店舗5

LPガス：一般店舗5

○「農林水産物資」については、原則として、35店舗とする。

※ 年末年始における需要増大等により生活関連物資の価格・需給状況に変化が見込まれることから、12月調査では、通常の調査（上記調査）と併せて、14の事業者（卸売市場、関係業界）に対して書面調査を実施した。